二〇二〇年四月一〇日

水引けば濁りの下に蝌蚪の影　素秀

コロナ自粛なる春昼を持て余す　たか子

健やかに目覚めて感謝百千鳥　せいじ

二〇二〇年四月九日

コロナ禍の長き自粛や花は葉に　ぽんこ

境内の小さきお砂場巣立鳥　明日香

散る花や本丸跡に辞世歌碑　なつき

今日の憂さすべて忘れて春の月　満天

二〇二〇年四月八日

大寺の要の桜散りはじむ　三刀

春温しスーパームーン耿耿と　智恵子

園児らの植えて満開ちゅうりっぷ　はく子

山門を額縁にして桜満つ　素秀

春光の綺羅波に浮く竹生島　隆松

空真青ひばり野となる河川敷　はく子

二〇二〇年四月七日

春暁や靄の内なる畝傍山　明日香

幾たびも庭に降り立ち春の月　菜々

二〇二〇年四月六日

足跡なき落花畳や城の朝　やよい

湧水に陽を吸ひ込みて藻草生ふ　智恵子

ウイルス禍よそに仄々春の月　菜々

初つばめ見しより憂さの晴れにけり　たか子

二〇二〇年四月五日

万朶の枝重ね重ねて花隧道　せいじ

巡り来る花時夫の忌なりけり　こすもす

花筏より赤目なる亀の首　なつき

二〇二〇年四月四日

城池の大き日溜まり花筏　なつき